

青葉通駅前エリア 将来ビジョン骨子案に関するアンケート結果

- 共感
- 違和感
- 提案、その他意見

このアンケートは無記名であり、所属・氏名等の公表はいたしません。
個人が特定される文言等については、
表現の変更あるいは非公表とさせていただきました。ご容赦ください。

設問1 エリアへの想い(心が動く「まちあわせ場所」をつくり、これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情を育てる)

<共感できた・やや共感できた>

主な意見 ・中間案での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・込められた意味合いは共感できるが、「限定的な捉え方をされてしまう」という意見が多くみられる <p>⇒【対応】フレーズ 자체を変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に伝えたいのか？ <p>⇒【対応】p4、p26に共有先を明記。</p> <p>将来ビジョンは今後のまちづくりを担う若い世代にも読んでもらえるように、手に取りやすく、読みやすい工夫を行う。</p>		
各意見	全体の共感度	共感できたフレーズ	理由
	やや共感できた	・世界に誇れる表情を育てる	仙台を全世界にアピールする物、場所を作り出すことは、ワクワク感がある。
	共感できた	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり ・これぞ「仙台の顔」と	「心が動く」は初見は違和感を感じて、非日常的で、常に感動している必要があるのかという疑問も感じたが、「心が動く「まちあわせ場所」をつくり、」のフレーズは、 目指したいビジョンとしてはっきりしている ように感じられる。会議で、「まちあわせ場所」に違和感が感じられるコメントもあったが、 この言葉はもっとしつくりくる言葉に置き換えた方が良い と思う。 仙台駅前は、やはり立地的に重要だからこそ、 このタイミングでみなで「仙台の顔」を議論していくべきだと思う 。だからこそ、あえてフレーズに入れるのは良いと思う。 ただ、二つのフレーズによって少し長いのは若干気になる。
	やや共感できた	・世界に誇れる表情を育てる	(コメントなし)
	やや共感できた	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	心が動く「まちあわせ場所」をつくり ⇒交通結節点としての「まちあわせ」や、まちと会う、人と会う意味での「まちあわせ」に掛けられていてしつくりきている。ビジョンの中でこのフレーズにした 意図がもう少し伝わると良い と感じました(単なる待ち合わせ場所と誤解されないように)。 今後、ビジョンの中にシーンのイラスト等を織り交ぜていくと意図が伝わるようになると考えます。
	やや共感できた	・これぞ「仙台の顔」と	会議の席上でも議論があったが、当該駅前を 来仙者向けの「仙台の顔」と位置付ける ことには諸手を上げて共感できるものの、「まちあわせ場所」という位置づけや言葉そのものに、 限定的かつ即物的な印象を感じるためか、急に想いが矮小化してしまった かのような違和感を大きく感じる。
	やや違和感がある	・世界に誇れる表情を育てる	世界に誇れる空間を創るという趣旨には強く賛同します。
	やや共感できた	・世界に誇れる表情を育てる	過去の協議会でも「挑戦をする」といった要素は出てきていましたし、中心部だけでもさまざまな地区が計画を立てていますが、周りに気を使い過ぎて玉虫色になりやすい／耳ざわりは良いけれども聞き流しやすいワードチョイスが多い印象です。エリア的にも、仙台のみならず仙台圏そのものを牽引する商業やにぎわいの中心地であることは 確か ですし、他の計画ではありませんい、いわゆる「引っ掛かりのある」表現を一部に混ぜることには賛成です。その意味で、仙台は明らかにインパウンドが弱く、観光危機管理も2024年の今更原案を作っている、というのんびりさに驚いているので、 商業の中心地として世界を意識しましょう、 という視座も立ち位置に合うと感じました。
	共感できた	・これぞ「仙台の顔」と	仙台駅周辺エリアは、仙台ひいては東北の玄関口であり、エリア周辺のみならず仙台・東北といった視点での位置づけを示すことが重要と考えています。そういう意味で、「仙台の顔」というフレーズは重要な意味を持つと考えます。
	やや共感できた	・全体	将来的な青葉通りのあり方としては、回遊性の起点であると同時に、目的地でもある必要がある。 県外から来られる人や市外から来られる人にとって、目的地であり集まる場所であり、そこから多彩なシーンがスタートするエリアを目指すべきと考える。 合わせて、東北の顔としての位置づけするべきと考える。
	共感できた	・全体	「心が動く『まちあわせ場所』」というフレーズは、単なる待ち合わせスポットではなく、 人々の感情に訴えかけるような、魅力的な空間を目指す という意思が現れていて良いと思います。また、「これぞ『仙台の顔』と世界に誇れる表情を育てる」という表現は、 仙台の玄関口としての自覚と、世界に通用する都市を目指そうとする気概を感じさせ、非常に共感できます。
	やや共感できた	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	各方面から人やものが会うというニュアンスを表現できている。 委員方の引っ掛かりがあるという意見も理解できるが、ビジョンを多くの人に振り向かれることを目指すなら、 ニュアンスをしっかり説明できれば良い と考える。

	全体の共感度	共感できたフレーズ	理由
各意見	やや違和感がある	・世界に誇れる表情を育てる	(コメントなし)
	やや違和感がある	・世界に誇れる表情を育てる	「世界に誇れる」という高い目標を掲げる点は、今後のまちづくりを進める上でも前向きな印象を与えることができて良いと思いました。
	共感できた	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり ・これぞ「仙台の顔」と	青葉通駅前エリアは、社会実験時に地元の方(子どもからお年寄りまで)、観光客、学生など多くの方に利用される空間となり、駅前であるからこそその待ち合わせ機能(一時滞在機能)があると思っていました。そこがより豊かになるためには、感情が動かされ、また来たいと思える空間となることだと思います。
	やや共感できた	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	「まちあわせ場所」の意味を「街と会う場所」ととらえたので、あえてひらがな表記にして複数の意味合いを持たせるなど、良いと感じました。しかし、「待ち合せ」の方をメインにとらわれてしまうと、意味合いが薄れてしまいもったいないと考えます。伝たいしたい想いと、インパクトのある表現のバランスがとても難しいところだと感じます。(例えば、誰に伝えたいのかを今一度考えてみるとか?)
	やや共感できた	・これぞ「仙台の顔」と ・世界に誇れる表情を育てる	青葉通駅前エリアの位置づけ(アイデンティティ)である「仙台の顔」のフレーズに加え、「表情」という言葉が他都市にはない将来像を表す言葉として受け取れて好感が持てます。
	やや違和感がある	・世界に誇れる表情を育てる	プライドの要素は指針(ビジョン)になりうるから。 ただ、トップに来るべきなのがプライドなのか??という疑問はある。

設問1 エリアへの想い(心が動く「まちあわせ場所」をつくり、これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情を育てる)

＜やや違和感がある・違和感がある・共感できない＞

主な意見 ・中間案での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・込められた意味合いは共感できるが、「限定的な捉え方をされてしまう」 <p>「具象ではなく方針や方角を想起できる表現に見直すべき」</p> <p>⇒【対応】フレーズ 자체を変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙台の顔についての意見も。顔といえば「青葉の風」、「何を示すのかわからない」、「単に名所・名物だけではなく、本地区の人・建物・空間・雰囲気などから生まれる形に表わせられない感覚を表情として仙台の顔と自信をもって言えるようになれば、素晴らしいことであり、真に誇れるエリア」など <p>⇒【対応】仙台の顔というフレーズに次の3つの意味を持たせことはいかがでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 仙台駅に隣接する地理的特性 ② 令和3年度の協議会で定めた視点1で掲げている「訪れる人に仙台の第一印象として好印象を与える、市民が誇れること」 ③ 上記意見「人・建物・空間・雰囲気などから生まれる形に表わせられない感覚が表情になること」 <ul style="list-style-type: none"> ・主語がなく「誰が主体に動くのかわからない」 <p>⇒【対応】p4、p26に共有先を明記。まずは方検討協議会のメンバー+沿道開発の関係者+仙台市が主体となり、体制構築、整備完了後は管理運営組織が主体に動くことを想定しています</p>		
	全体の共感度	違和感があるフレーズ	理由
	やや違和感がある	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	9月3日の会議の中で、意見が出されました、「まちあわせ場所」はなにか違うように思う。
	やや違和感がある	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	「まちあわせ場所」というフレーズは、敢えてひらがな表記にしていることからも、様々な意味が込められているのだと思うのですが、どうしても純粋な「待ち合せ場所」を想定してしまい、回遊を含めた動的な広がりを感じにくいような気がします。 仮にそのまま使うとしても、このフレーズに込めた意味をより丁寧に示す必要があると考えます。(現在の案でも「まちに会う」との記載はあるのですが)
	やや共感できた	・これぞ「仙台の顔」と ・世界に誇れる表情を育てる	個人的な好みになるかもしれません。。。 「これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情を育てる」 ではなく、「世界に誇れる「仙台の顔」を育てる」の方がスッキリ・わかりやすい印象です。 青葉通駅前エリアの表情=仙台の顔 という認識です。
	やや違和感がある	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	協議会での意見にもあったとおり、この言葉を耳にした場合、「待ち合せ」と捉える方が多いと思われ、作成側の意図が伝わらない可能性が高いと感じる。 全体的にインパクトある言葉が良いと考える。
	やや違和感がある	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり ・世界に誇れる表情を育てる	「まちあわせ場所」という表現により限定的な用途イメージになってしまう懸念があるのでないか。目指すべきことではあると思うが「世界に誇れる」という表現が強すぎて現実とのギャップを感じてしまう。
	やや共感できた	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	会議の席上でも議論があったが、当該駅前を来仙者向けの「仙台の顔」と位置付けることは諸手を上げて共感できるものの、「まちあわせ場所」という位置づけや言葉そのものに、限定的かつ即物的な印象を感じるためか、急に想いが矮小化してしまったかのような違和感を大きく感じる。
各意見	やや違和感がある	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	「まちあわせ」の意味には共感しますが、市民への伝わり方を考えると、慎重に言葉を選んだ方が良いと思います。「待ち合せ」として伝わることのリスクヘッジが必要ではないでしょうか。 また、誇るのは達成された成果であり、「仙台の顔」は評価基準もないで、勝手に誇ることになってしまいます。「杜の都」や「防災都市」は方向が明確ですので、誇れる内容だとれます。
	やや共感できた	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	「仙台の顔」という表現は確かに過去の協議会で出てきているけれども、既に書類内に散らばっている素材を組み合わせて、私たちにとっての「仙台の顔」とは「○○」と別の表現をする必要があると思う。顔を定義すると必然的に尻も定義されやすいわけで、他のエリアは他のエリアで「仙台の顔」を自称しており、お互いに敵対心を煽りやすいし、受け手に混乱を生みそう、という観点から。これまでの意見を踏まえると「仙台の顔」=「晴れの場で見せる第一印象」に近いものではないか、と受け取っているので、そんなイメージを示せると良いかもしれません。「まちあわせ」という表現については、複数の方が言及していた「引っ掛けたりは必要だけども、この表現ではない」という意見に私も同意です。
各意見	やや違和感がある	心が動く「まちあわせ場所」をつくり これぞ「仙台の顔」と 世界に誇れる表情を育てる	よく考えられたフレーズだと思いますが、その意味するものが直感的に伝わらない気がします。 仙台在住者、市外からの来訪者にワクワク感を与えられるようなフレーズがいいのではと思います。 尖がってはいませんが、新たな杜の都へ、Neo仙台はここから始まる！！ かつて仙台の顔であったエリアの再出発に期待する思いですが、平凡すぎずみません。

各意見	全体の共感度	違和感があるフレーズ	理由
	やや共感できた	・世界に誇れる表情を育てる	「育てる」というフレーズにはまちの発展・QOL向上のニュアンスが表れづらい。
	やや違和感がある	・全体	「まちあわせ場所」という言葉に違和感があります。他の委員の方からも、「今の若者は待ち合わせをしない」、「おひとり様もたくさんいる」とのコメントがあり、他の表現が良いのではないか?と思いました。 「仙台の顔」と仙台だけに限定するのではなく、「東北」とエリアを広げたらいかがでしょうか? 「世界に誇れる」というワードは、利己的で共感できないと感じました。 このフレーズには、主語がなく、誰が主体的に動くかがわからない。
	やや違和感がある	・これぞ「仙台の顔」と ・世界に誇れる表情を育てる	フレーズの意図、想いには共感するが、これぞ「仙台の顔」としては現況では「青葉の風」彌刻があり、現況と未来との整合性なのか、リニューアルなのか、わからない。故にフレーズは違和感を覚える。又「世界に…」についても、その展開の方向性が不明ななかで、一般的な言葉として遊離していると違和感を覚える。むしろ、世界からの来評者に愉しんでもらえる方が期待できると思う。
	やや違和感がある	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	「まちあわせ場所」というのは、待ち合わせた人が集まればどこかへ移動してしまうことを意味すると思います。回遊の起点という点を重視したい気持ちも分かりますが、エリアの特長を表現する言葉としては適当でないと考えます。 「ハチ公」前は「まちあわせ場所」ですが、「渋谷」あるいは「渋谷駅前」のエリアに対して「まちあわせ場所」で済ませる人はいないと思います。 「まちあわせ場所をつくる」のは手段であって、目的にはならないと思います。
	やや違和感がある	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり ・世界に誇れる表情を育てる	全体感としてやや違和感があるため、個別フレーズ単体には共感できませんでした。 意図や趣旨には共感しつつも、このワード自体には、次の通り、やや違和感を覚えました。 ・「まちあわせ場所」というワードが、一般的には、その意味の通りに狭く解釈されてしまう可能性が高く、全体の意図が伝わり難いのではないかと感じました。 ・前半のワードに対して、後半(これぞ以降)の「世界」というワードはアンバランスに感じました。
	やや違和感がある	・全体	憩いの空間として活用する目的とミスマッチを感じる。 現状でも仙台駅ペデストリアンデッキから青葉通りの眺めは、杜の都の顔として充分魅力的ではないか。 「まちあわせ場所」をつくるにも違和感を感じる。
	やや違和感がある	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり ・これぞ「仙台の顔」と	青葉通は仙台・宮城、更に言えば東北の「玄関口」というイメージが強く、青葉通が果たす機能としては、旅の出発点やビジネスの拠点など様々なシーンが想定されると思います。検討会当日の意見にもありましたが、必ずしも「まちあわせ(待ち合わせ)」というシーンや「仙台」に限定する必要はないのではないかと感じました。
	共感できた	・世界に誇れる表情を育てる	共感を感じた一方で、待ち合わせ場所等が世界基準かというとそうではないように感じています。対象地が周辺地域、仙台、そして東北の玄関口としてのあり方を体現するという意味では、世界よりはもはすこし東北に馴染んだフレーズになることが地域としても馴染みがあるフレーズになるのではないかと感じました。
	やや違和感がある	・全体	結果に対して『これぞ仙台の………表情を育てる』場所である。とのお言葉を頂けたらさぞやありがたい、と感じるであろう文言。「心が動く…」心が動くに少し違和感。
やや共感できた	(選択なし)		違和感ではないのですが、現時点で「仙台の顔」は何?と聞かれたときに、わからないのが本音です。 (良いところも沢山あるのですが、なんかぼんやりしているような…) これが、単に名所・名物だけではなく、本地区の人・建物・空間・雰囲気などから生まれる形に表わせられない感覚を表情として「仙台の顔」と自信をもって言えるようになれば、素晴らしいことであり、真に誇れるエリアになると感じます。
やや共感できた	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	(鶏と卵ではありますが、)これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情を育てるために、必要な価値観(取組みの方向性)「グラデーション・ポジティブ」と捉えると、「心が動く「まちあわせ場所」をつくり、」に唐突感を感じます。 「この場(エリア)やひとが主役となり、」とか、新たな概念というよりは、後段の「表情を育てる」を添える言葉がいいと個人的には感じました。あと、～をつくり、～を育てるだと、一つのフレーズで二つのことを言っているので、合体してもよいかなども。 例:この場やひとが主役となり、これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情をつくり、育つ	
やや違和感がある	・心が動く「まちあわせ場所」をつくり	ビジョンは具象ではなく方針や方角を想起するものだから。 心が動く「まちあわせ」場所をつくる→「こんな空間が必要(空間の具体なイメージ)」を想起する。社会実験の風景を知っている人なら想起しやすい素敵なイメージだが、ビジョンで使うワードではないと感じる。 これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情を育てる→「仙台の顔」とプライドの要素が一緒になり、異なるイメージを想起させられる。作文は委ねたいが、「グラデーションポジティブを世界基準で育む(グラデーションポジティブをメインに)」「世界基準で変化し続けるストリートに(プライドメインに)」とか、絞る方が良さそう。	

設問2 共有したい価値観（グラデーション・ポジティブ）

<共感できた・やや共感できた>

主な意見 ・中間案での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・印象的、包括できている、柔軟なアイディアや主体性も生まれやすい <p>⇒【対応】グラデーション・ポジティブという表現は確定し、今後の取組みに活かします</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意図がさらに伝わる、共感されるよう説明の工夫が必要では <p>⇒【対応】説明の内容を変更しています。</p> <p>今後、言葉だけでは伝わりにくい面を図やイラスト等を用いて補足説明することを検討します。</p>		
	共感度	共感できたフレーズ	理由
各意見	やや共感できた	・グラデーション	一色ではなく、色が変化することから、街が変わって行く感じが伝わり良いと思う。
	やや違和感がある	(選択なし)	神戸に行ったときに、東部新都心の愛称がHappy Active Townと名づけられていることを知って、拍子抜けするような楽天的な言葉だなと思ったのですが、意外と印象に残りました。 違和感が残る良さ は感じます。
	やや共感できた	・グラデーション	(コメントなし)
	共感できた	・全体	歴史、性別、人の感じ方・考え方、居心地の良さ、街が変わりゆく様子など、 様々な「グラデーション」 に対して 「ポジティブ」 になろうとする価値観は、 様々な人が訪れる当該エリアにピッタリ であると考えます。
	やや共感できた	・全体	文法的には違和感があるが、 インパクトとして耳に残る言葉 を感じた。
	共感できた	・全体	多様な主体との価値観の共有と前向きさ をイメージすることができた。
	共感できた	・グラデーション	構成要素のうち「ひと」については、ダイバーシティの一般化もあり明確な境界線が無い 「グラデーション」という言葉 が合致すると感じた。また、3つの対象それぞれで目指すところが少し異なるが、それを「 ポジティブ 」という言葉で一括りに表していることは端的に良いと感じた。
	共感できた	・全体	受け取り手それぞれにとって「 ポジティブ 」であればいいんだな、という、解釈における寛容性や懐の広さを感じるため。 アクションを起こしてもらう際に参加者のモチベーションを高めやすそう です。
	やや共感できた	・グラデーション ・ポジティブ	現代社会の多様性に対応した新しい表現を感じました。ハード面において交通というワードを記載して必要性を明確にしていただいたことにも感謝いたします。ただ、社会実験の時から赤と青の色使いにさわやかさや優しさを感じることができず杜の都仙台のイメージと少し違うかなと感じております。
	共感できた	・全体	・様々なグラデーションがある中で、それに対して常にポジティブに捉えて、ビジョンの実現を目指していくという考えに共感しています。 ・その意図が、現状ではなかなか伝わっていない可能性があると考えます。次回以降の協議会で、ビジョンをどう実現させていくか、という点について、この価値観の考え方の再説明も含めて丁寧に説明することが重要を感じています。 ・ビジョンをどう実現させていくか、という点については、さしあたりの10年後などのショートゴールについても協議会ですり合わせておく必要があると考えます。
	やや共感できた	・グラデーション ・ポジティブ	時代や環境の変化に合わせて、アップデートしていく方針について 共感 できた。
	共感できた	・全体	「グラデーション」という言葉は、エリアの多様性と変化を巧みに表現しており、非常に斬新で魅力的。「ポジティブ」という言葉は、未来志向で前向きな感じがして良いと思います。
	やや共感できた	・グラデーション ・ポジティブ	面的な広がりをもって表現できていると感じた。 ただ、 グラデーションの広がりを視覚的に表現してもらえるとよい と思った。(地図上に古いもの・新しいものを色別で円状にプロットして、まちに様々な色が広がっていくイメージ?)
	やや共感できた	・ポジティブ	ポジティブ という言葉は、前向きで良いと感じました。
	共感できた	・全体	(コメントなし)
	やや共感できた	・ポジティブ	伝えたい意図が伝わりそうなフレーズと思ったからです。

	共感度	共感できたフレーズ	理由
各意見	やや共感できた	・全体	全体の語幹として、キャッチャーで印象に残りそうだと感じました。 一連のフレーズが意味する内容について、地域的な特徴を捉えたものとして、地域の関係者が直感的に共感できると良いと感じます。
	やや違和感がある	・全体	グラデーションポジティブというフレーズ自体はとても良いと感じています。問1の表情にたよるポジティブな要素が絡み合うという観点で、親和性もあり非常に良い言葉であると感じています。 また、主語が無い観点も、協議会関係者をはじめ、地域の方、多様な方が主語になり得る余地を残している点も良いと感じています。
	やや共感できた	・グラデーション	グラデーションは言葉として穏やかな主張が垣間見える。非常に良い印象です。
	共感できた	・全体	単に「歴史を大切に良い方向に前向きに進もう」だけではなく、良い事や成功した事以外にも、悪い事や失敗した事も事実・経験として生かしながら良いエリアを目指して前進していくこうという事かなと感じました。 また、グラデーションという言葉で、原色で主張しあうだけではなく、様々な事柄がうまく混ざりあいながら魅力的な色もつくっていこうという意味もあるのかなと思いました。
	やや共感できた	・全体	空間・機能・コミュニティすべてに共通する価値観「グラデーション・ポジティブ」のフレーズは良いと感じています。ただ、初見や説明がそれなりに必要だと感じる所以、ビジョン内での説明が重要だと思います。
	共感できた	・全体	静・動の居心地の良さのニーズはまさにグラデーションで、シーンやその人の感情、欲求にあわせたものに対応していく指針になりうる。地権者の皆さんにも「ここは商業」「これは公共系(即物的ではないが、大切)」というグラデーションのありようを構えを持ってもらえたらしいのではないか。 あのエリアとその近辺に多様な関係が生まれようとしている。既存の関係もある(青葉通りまちづくり協議会や社会実験以降も青葉通りに関わるストリートピアノ関係も含めて)。ただ、そこに「わかりあう」を入れてしまうと相互監視感が強まるし、多様性の押しつけとなんら変わりないので「横目でそれとなく互いのアクションを認知している(連携すべきところはするが)」みたいなのは良いと思う。今後関わりたいという関係者がいる場合は、「グラデーションポジティブを大事に持つてやるんだよ」と説明できること、「こんなことやってもいいのかな?」と柔軟なアイデアや主体性も生まれやすいのではないか。

設問2 共有したい価値観（グラデーション・ポジティブ）

＜やや違和感がある・違和感がある・共感できない＞

主な意見 ・中間案での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・グラデーションについて、「分かりづらい、他人に説明しづらい」 <p>⇒【対応】説明の内容を変更しています。骨子案では3つのグラデーションとして示していましたが、端的に示しています。</p> <p>今後、言葉だけでは伝わりにくい面を図やイラスト等を用いて補足説明することを検討します。</p> <p>また、中間案では方向性(コンセプト)を定め、取組みを進めるためのポイントとしています。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブは肯定的な意見が非常に多い 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン実現に向けて、どのようにフレーズをプランディングしていくか 		
	<p>⇒【対応】 p9に記載している通り、プランディング・マーケティングに基づく戦略的なエリアプロモーションを進めます。</p>		
	<p>「エリアの想い、共有したい価値観という2つの似たようなフレーズが並ぶことに違和感」との意見</p>		
<p>⇒【対応】エリアへの想い→将来像、共有したい価値観→価値観に変更しています。p4に位置付けを示しています。</p>			
各意見	共感度	違和感があるフレーズ	理由
	やや違和感がある	・全体	グラデーション・ポジティブの言葉の位置づけが少し腑に落ちないです。 色々な人の過ごし方に変化があって、柔軟に対応する必要があることは、ある意味、当たり前なことでもあると思うので、ビジョンの下で、箇条書きになっているような、いくつかの理念の中の一つ、のような表現にするとちょうどよい気もします。
	やや違和感がある	・グラデーション	キャッチャーな言葉をフック(関心を得るための言葉)にしたいという気持ちは良く理解できます。ただ、言葉づくりが先行しそうで、市民がついて来られないことが懸念されます。「ポジティブ」は良いと思いますが、「グラデーション」は伝わらないように思います。ただでさえ、駅前空間への関心と不満が非常に強い状況なので、もう少し伝わりやすさに配慮していかかでしょうか。
	やや共感できた	・全体	変化やアップデートの方向性については、P19 のビジョン(コンセプト)と合わせて検討が必要だと考える。
	やや共感できた	・グラデーション	・グラデーションという言葉が、わかりづらいと感じました。パッとどのような意味か思い浮かばない。 ・共有したい価値観なので、その言葉を聞いたときに、イメージできる言葉が良いと思います。
	やや違和感がある	・全体	解説がないとわかりにくいフレーズと思う。インナー向けではなく、一般人向けのフレーズであるなら、解説なしでピンとくる言葉や造語が良いと思う。
	違和感がある 共感できない	・全体	資料を何回読み直しても、自分の言葉に置き換えて他人に説明できるように理解ができません。「グラデーション」は別に当エリアだけでなく、一番町でも中央通でも泉中央でも長町でもそれぞれにグラデーションがある訳で取り立てて当エリアの特有の価値観にするべきものでもないようを感じられます
	やや違和感がある	・グラデーション	多様な都市機能が集積している特徴をグラデーションと表現したいのかイメージが薄い印象である。今後の沿道の開発などもありポジティブは理解できるが、グラデーションはほんやりした印象を受けた。
	やや違和感がある	・全体	フレーズ自体に違和感があるわけではなく、想いと価値観という2つの似たようなフレーズが並ぶことに違和感があります。将来ビジョンであれば、エリアのビジョンとして、問1のフレーズを押し、そのためにどんな価値観のある場とするとか、心構えとしてグラデーション・ポジティブを掲げるといった立て付けの方が理解がしやすいと感じました。 ビジョンの検討に当たっては、どんな言葉を使うよりも、どのようにそのフレーズをプランディングしていくかということが大事だと感じています。
	やや共感できた	・ポジティブ	ポジティブは言葉として強い意思(成し遂げようとする気持ち)を良いと感じます。 また、残念ながらオンとオフのように反対側の意味を薄く想起させる感じがしてしまいます。
	やや違和感がある	・全体	空間・機能・コミュニティすべてに共通する価値観「グラデーション・ポジティブ」のフレーズは良いと感じています。ただ、初見や説明がそれなりに必要だと感じるので、ビジョン内での説明が重要だと思います。

設問3 実現したいシーン

<記載されているシーンの他、ご提案がございましたらご自由にご記載ください>

主な意見 ・ 中間案での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「バス利用者」等の公共空間機関を利用するシーンを盛り込んでほしい ⇒【対応】 p30に盛り込みました。アンケート結果、社会実験で寄せられた意見を基に記載しています
	<ul style="list-style-type: none"> ・グラデーション、ポジティブを感じる表現も出来ると良いのでは ⇒【対応】 来訪者の属性ごとに様々なシーンを記載することで、グラデーション・ポジティブを表現 しています
	ご意見
	<p>・市民:街中の用事に向かう途中で、時間を調整できる場所。 そこに行けば、座って待てるだろうという場所 可能であれば、少し屋根がかかっていると良い(東西通路の丸いベンチみたいな場所) :この場所に用はないけど、選んで通り抜けたくなる道 :待ち合わせスポットになる</p> <p>・県外來訪者:札幌の赤レンガ庁舎前、東京駅前の広場、みたいに、仙台駅舎を前に仙台にきた、という写真をとれる場所にもなる。 :横浜の山下公園、札幌の大通り公園のような、雰囲気が良くて知られている場所にもなると嬉しい。 :県外から来た人にとっては、一つの目的地となるのもよい。</p> <p>・オフィスワーカー(市内在住):オフィスに向かう途中で選びたくなる道、お昼ご飯を外で食べたくなる場所 ・オフィスワーカー(東京在住):取引先に向かう途中で時間をつぶせる場所、出張に行くついでに寄ってきたと言える場所、仙台駅から出たら、仙台らしさを感じられる場所。 ・全体:夜、雰囲気がよくなるライティングが設置されている?</p> <p>シーンについては、「心が動く「まちあわせ場所」をつくり、これぞ「仙台の顔」と世界に誇れる表情を育てる」に対してだけではなく、「グラデーション・ポジティブ」についても表現できると良いと思いました。 行動に関するシーンのみならず、心情の変化や、人生の移り変わりなども「ポジティブ」に捉えていく!ということがイラストで表現できると「グラデーション・ポジティブ」の深い意味まで伝えることができるのではないかと考えます。</p> <p>天候が悪い時でも利用価値のあるエリアであることを伝えられるものがあると良いのではないかと思います。</p> <p>・シーンとして描きたい要素 ⇒ 東北の玄関口としてイメージできるシーン ・その他必要と感じるキーワード ⇒ 四季折々の良いイメージ</p> <p>・青葉通駅前エリア周辺の店舗関係者(経営者や店員) ・青葉通で開催されるイベントの参加者や主催者</p> <p>イベントで寄せられた意見は広場化や車線減少を前提としたものと感じます。例に挙げていただきましたが、現状において日常的にこのエリアに訪れている「バス利用者」のシーンも盛り込んでいただけたらと思います。</p> <p>資料を眺めて、オフィスワーカーのシチュエーションを多めに、例えば嫌なことがあったときに、スマホでなくケヤキや高層ビルや空を見て(目線を上にあげて)、明日も頑張ろうと思う、みたいなシーンもあっていいかもなあ、と思いました。他の都市では意外と目線を上に上げる空間上の要素がないので。丸の内ほど高層ビルが建て込んでいるところは驚きの感情とともに見上げますが、よく比較される埼玉・立川では目線を上に上げることはないです。</p> <p>・市民や仙台への来訪者が沿道施設を利用しショッピングなどを楽しむシーン ⇒開発事業者、地権者に対して、このエリアが今ままでは良くなく、より良いエリアにしていくことに共感を持ってもらう、自分ごととして考えてもらうために、居心地が良い空間などの視点以外に、商業視点での未来図も見せることが必要と考えます。</p> <p>・公共交通の待ち合い場所となっているシーン(居心地のより待合スペースで公共交通機関の乗り場や時刻、運行状況をサイネージで確認できるようなイメージ) ⇒交通事業者に対しても、自分ごととして、交通結節点の視点でこのエリアのあり方を考えもらうにあたり、こうしたイメージを盛り込むことが必要と考えます。ただし、交通結節点整備のあり方の議論との調整も必要と考えます。</p>

ご意見

・今後はインバウンドの増加が期待できることから、もう少しインバウンドの方の利用シーンを入れると良いのではと感じました。
良いと思う

市民もワーカーも来訪者も「笑顔」で過ごすことができる

拘りはなく、つぶやき程度のコメントで恐れ入りますが、仙台市を拠点に回遊できるような、温泉、スポーツのような観点もあっても良いかなと思いました。

バス、タクシー等公共交通利用者、外国人観光客

青葉通エリアは、JR仙台駅を拠点として、ペデストリアンデッキや地下鉄駅、バスターミナル、タクシープール等があり、各種公共交通機関の結節点となっている点が大きな特色であると思います。
より各種公共交通機関を用いて移動する方の時間の使い方(快適に過ごせる空間)に着目したシーン選定があると良いのではないかと思いました。

- ・市民や仙台への来街者が仙台のまちにでかける際の待ち合わせシーン
- ・ストリートピアノを通じて老若男女が一つの空間を囲み、楽しさを分かち合えるシーン
- ・地域の子どもたちがいきいきと遊び、親がそれも見守るシーン
- ・出張者やビジネスマンがけやき並木の木陰で一息つくシーン
- ・帰り際に沿道の店舗で楽しんでから、それぞれが帰るシーン
- ・仙台から上京する学生や新成人が名残惜しく、また帰ってくることを心に決めて飛び立つシーン

まずは、場所づくりとして待ち合わせも含め、市内、県内、全国の皆様が『通ってみたよ。寄ってみたよ。行ってきたよ』などと言ってもらえるような場所を目指してほしい。表現として難しいのですが、外からみて魅力的に感じてもらえるシーンなど。

設問4 3つの目指すこと

- ・心が動く「まちあわせ場所」を継続して実現できる 世界に誇れる“空間づくり、仕組みづくり”
- ・公共空間だけでなく“沿道開発と一体的に行い、互いに相乗効果を生み出すこと”
- ・来たことがある人も・ない人も訪れたい、関わりたい、応援したくなる ブランディング、マーケティングに基づく“情報発信”

主な意見 ・ 中間案での対応	<ul style="list-style-type: none">・訪れたい、関わりたいことを通して経済的に貢献すべき・プレイヤーの発掘・育成、コミュニティの醸成・維持についても追加すべきでは <p>⇒【対応】</p> <ul style="list-style-type: none">・3つの目指すことは、p9の「実現に向けて」にまとめました・経済面の要素は、将来像、目標に盛り込みました <p>・シティプロモーションに貢献する視点を持つべき</p> <p>⇒【対応】 エリアプロモーションという表現で示しています</p> <ul style="list-style-type: none">・沿道開発は遅いので、エリアが目指すイメージを提案しては？ <p>⇒【対応】 値値観、方向性、将来像をエリアが目指すイメージとして提案しています</p>
	ご意見
	この会議の目的は公共空間だけでなく、沿道開発を一体的に行い、互いに相乗効果を生み出すために開催していると思う。公共空間だけどうあるべきか、どのような公共空間にするかを考えても、沿道にどのような建物、施設が建設されるかわからないと厳しい会議となると思う。
	<ul style="list-style-type: none">・仙台、東北の顔になること・仙台駅から人を街に流していく起点となること。仙台駅と街をつなぐ結節点となること。・これから作られる沿道の建築、既存の建築と掛け合わされることで、相乗効果を生む公共空間など
	位置づけの話になりますが、「心が動く「まちあわせ場所」を継続して実現できる 世界に誇れる“空間づくり、仕組みづくり”」が、目指したいことであり、そのためにやるべきこととして、「公共空間だけでなく“沿道開発と一体的に行い、互いに相乗効果を生み出すこと”」「来たことがある人も・ない人も訪れたい、関わりたい、応援したくなるブランディング、マーケティングに基づく“情報発信”」という位置づけになるのかなと思っております。 そのように考えたとき、やるべきこととして、心が動く「まちあわせ場所」を継続していくためのプレイヤーの発掘・育成、コミュニティの醸成・維持についても追加したほうが良いのではないかと感じました。
(会議の席上で「まちあわせ場所」に包意されているとのお話しがあったと記憶していますが、) 「人が行き交う」場所(=交通結節点)であり、その結果「常に賑わいのある」場所でもあります。	
「時代の先端性」を入れることをご検討いただきたい。	

ご意見

エリア的にデベロッパーも多く、訪れたい・関わりたいを増やすことで、経済的な貢献もするのだと強く繰り返し伝える必要はあります。“情報発信”だと実務的な細かいものをイメージしてしまうので、「シティプロモーションへの貢献」、くらい言及しても良いのではないかでしょうか。一般的には「地域の魅力を内外に発信し、その地域へヒト・モノ・カネを呼び込み地域経済を活性化させる活動」と定義されています。

・1点目に含まれていると解釈していますが、前段の仙台の顔として今後期待される役割の一つである「②他エリアへの回遊の起点となる役割」に対応する目指すこととして、「東北の玄関口・交通結節点として、仙台駅周辺の賑わいを都心・他エリアにつなげる回遊の起点」といった文言があったほうが、より理解がしやすいと考えます。

「世界に誇れる空間づくり」壮大すぎてイメージできませんが、ぜひ実現していただきたいです。

目的地としての沿道開発などの空間づくり、仕組づくりをご検討いただきたい

仙台駅前商店街振興組合では「五番街の将来の姿」を平成4～5年に検討策定して、当時の仙台市長へ説明と要望をしていました。その街づくりの目指す方向性としては「国際化、情報化、高齢化、環境化、安全化」の5項目による「エリアアイデンティティ」の確立を目指すとしていました。基本コンセプトは「快適空間の創出」でした。そのひとつとして、来訪者を歓迎するメッセージとして花いっぱい運動を継続しています。

・心が動く「まちあわせ場所」を継続して実現できる 世界に誇れる“空間づくり、仕組みづくり”
・公共空間だけでなく“沿道開発と一体的に行い、互いに相乗効果を生み出すこと”について、理想は、より具体的な項目や議題の洗い出し、それを実現するための超中期的な計画まで組み込むことかと思います。ただの絵空事になってしまってもビジョンとして意味がないため。

一点目については先の設問で回答したとおりですが、いずれも重要なポイントだと思います。

① 対象地の空間性

② 沿道との関係性

③ 周辺地域や世間と場所をつなぐツール

上記3つは上記の観点で整理がつくと思うので、バランスが良いと感じています。

ここに追加するのであれば、人と人の関係を構築する対象地に対する人間的な側面かと思いますが、現状の3つの目指すことから修正する必要性はそこまで高くないと感じています。

沿道の民地の動きが遅いので、沿道の皆様にエリアが目指すイメージを提案したらどうだろうか？

ビジョン内の表現でも大きくくりとして、「空間づくりと仕組みづくり」があるので、「3つの目指すこと」はその具体的な説明内容を記述できるといいのかなと感じました。

・東北の玄関口としての、心が動く「まちあわせ場所」への挑戦
・エリアに訪れたい、関わりたい、応援したくなる効果的なブランディングの実現
・(官と民の連携による)沿道との一体的な空間活用等による相乗効果の最大化

設問5 ビジョン全体

<構成、気になる点、改善点等のご意見、ご感想がございましたら、ご自由にご記載ください>

主な意見 ・ 中間案での対応	<ul style="list-style-type: none">・分かりやすく、将来像も明確。シーンも具体的でよい
	<ul style="list-style-type: none">・沿道開発を踏まえた検討が必要 <p>⇒【対応】 沿道開発とは将来像、価値観、方向性を共有、共創のうえ取組みます</p> <ul style="list-style-type: none">・誰に届け、誰に行動の変化を促したいビジョンなのか不明瞭 <p>⇒【対応】 p4、p26に共有先を明記。実現したいシーンを実現できる行動変化が発生するように、今後の取組みを進めます</p> <ul style="list-style-type: none">・交通面を外して考えていくことはできない。十二分に踏まえること <p>⇒【対応】 このエリアの特長であるため、ビジョン策定後も十二分に踏まえます</p> <ul style="list-style-type: none">・回遊の起点は、交通結節点である仙台駅前で良いのではないか <p>⇒【対応】 バス、地下鉄等の公共交通機関を活用して都心内に回遊する観点では、仙台駅前(駅前広場)も、もちろん起点になるべきです。 しかし、今回の取組みでは下記事項のために回遊の起点になることを目標として掲げています。</p> <p>＜現状＞ ペデストリアンデッキ、東西自由通路が回遊のメインとなっている</p> <p>＜今後＞ より多くの人に都心部に回遊してもらうためには、下記の2つを実現していく必要がある</p> <ol style="list-style-type: none">① ペデストリアンデッキ、東西自由通路に集中している歩行者を惹きつけ、呼び込む② 現在仙台駅周辺に訪れていない市内、市外の来訪者を惹きつけ、呼び込む <p>→p20、p21にまとめています。</p>
	<ul style="list-style-type: none">・経済的、場所に対するイメージ構築の視点も必要 <p>⇒【対応】 経済面の要素は、将来像、目標に盛り込みました。 場所のイメージは、ビジョン、今後の取組みを通してブランディングに基づくイメージ構築を行っていきたいと考えています。</p>
	<p>ご意見</p> <p>ビジョンは大切なことは理解しますが、沿道開発の計画が進まないと、青葉通り駅前エリアの公共空間をどうするかだけ検討する会であれば、もっと少人数の会議で進めた方が良い。沿道地権者の方々は、もっと市の支援(内容はわかりませんが)を求めており、仙台市は、民間側の開発計画を見守っている状況と感じます。仙台駅前の優良地を生かすアイディアを提案してくれる方はいないのでしょうか。地権者の方々は、投資してそれをどのくらいで回収できるかが最大の目標です。将来にわたって、魅力ある青葉通り駅前エリアにすることは大切です。どうか、地権者の方々と情報交換を密に行っていただきたい。</p> <p>今回の提示内容は、青葉通り駅前エリア限定のビジョンとなっており、仙台駅西口周辺全体を俯瞰した場合、当エリアの選考に違和感が出たことは否めないと思います。(現状としては仕方ないかもしれないが…)</p> <p>また、当エリアに限定しても沿線開発の動向がまだはっきりしない中での協議会であったため、地権者からも市の関与を問われたものと思います。</p> <p>今年度末までに将来ビジョンを策定することになっているが、その後の見通し(基本・実施計画策定や事業の完了見込み等)が無いため、現実的なものとして受け止められるか心配であります。</p>

ご意見

資料の構成は、非常に分かりやすく整理されていると思います。あとは、関係者間において「エリアへの想い」、「3つの目指すこと」について共通認識が図られれば良いのかと思います。

全体的にこれでもか、というほど分かりやすく練られていますし、P21・P22の具体的なシチュエーションの提示も、とても具体的で分かりやすいと思います。ただ、全体を通して、やはりお堀を埋める形で自治体側が提案をする形を取っているためか、特に誰に届け、誰に行動の変化を促したいビジョンなのか不明瞭な印象は受けます。将来的に会員になることを見込むデベロッパーや地権者宛に強く訴求したいはずなので、現状は小さなグラフにとどめている表現をもっと数字が目立つように記載したり、回遊率・滞在時間が上がると売上も上がる根拠となるデータなど、経営者が喜びそうな要素を追加しても良いかもしれないなあ、と感じました。せっかく整える高機能オフィスに勤める方々が、オフィスのある街区に持つ印象やそのエリアに通うプライドも含めてエンゲージメントの高い状態になれば、テナントの業績も上がりますよ…なんてね。実際、20代のころ、立川オフィスに通うのと丸の内オフィスに通うのとでは、周りの同僚の「みなぎり方」が全く違う実感がありました(実体験)。在宅ワークも当たり前の今の時代、敢えてオフィスを据えるならどこにするかも、誘致を目指す企業側のCIや理念に強く紐づき、「駅チカで便利だから」以上の理由が必要になるよなあと思います。

- ・問4的回答にも関連しますが、全体の流れを再確認する意味で、「背景・現状」→「期待される役割」→「想い・価値観」→「目指すこと」の結びつきを整理することが必要と考えます。姥浦先生からも指摘があった点だと認識しています。うまく対応しない点があれば、修正、追記することもあり得るを考えます。なお、結びつきを整理したものは、少なくとも、協議会内で共有できればよく、各々の内容が対応していれば、ビジョンの本文には登場しなくても差支え無いと考えます。
- ・仙台市の重要地である仙台駅周辺、その中の青葉通仙台駅前エリアをより良いエリアにしていくことが、仙台市全体、ひいては東北全体の発展につながっていくということが、ビジョンを見る人にうまく伝わると良いと考えます。特に、開発事業者の方に対して、このビジョンを見て、今後の開発においては自分たちの開発プロジェクトだけで最適化するのではなく、青葉通仙台駅前エリアで開発するということの重み、責任感や、当該エリアの活性化、仙台市全体、東北全体の発展に寄与していくという視点を持ってもらえるような内容にしていくことが重要と考えます。そうしていくための開発事業者さん等との意見交換も重要と考えます。

表紙の挿絵も含め社会実験(イベント)のプラス面をビジョン策定に活用し好印象を与えていますが、民間の沿道開発で憩いの場やイベントができる空間の提供が可能なのか、公共空間の広場化や車線減少なしで実現できるものなのか、難しいのではないかと感じます。立場として周辺の交通状況の整備が整わない限り、このエリアの道路としての機能面を除外して考えることは難しいです。それと抽象的なビジョンの策定は難しいと感じています。また、回遊の起点は、ここにこだわる必要はなく交通結節点である仙台駅前エリアでいいのではないかと考えますがダメでしょうか。行政と沿道開発の連携で経済の活性化による都会的な顔とちょっと田舎的な雰囲気を感じられるそんなエリアを目指していただければと思います。

「滞留空間やスペースの確保」や「自由通路と青葉通の導線が一致していない」という課題解決に向けた検討もお願いしたい。

ビジョン全体は非常に包括的で、青葉通駅前エリアの将来像を明確に示していると感じます。特に、歴史と未来、地域性と国際性のバランスが良く取れており、仙台の特徴を活かしつつ、新たな価値を創造しようとする姿勢が素晴らしいです。

ご意見

青葉通駅前エリアのビジョンをまとめるにあたって、周辺エリアとの関係性については触れるべきと考える。

例えば、アーケード通りや仙台駅にはそれぞれの機能・用途が想定され、それに対して当該エリアはどのようなエリアにするのか、各エリアにデッキ・路地等で円滑に移動アクセスできるという周辺との連携があると、仙台市外の人から見ても全体像がよく分かるビジョンになると感じた。

空間のあり方として、ペデストリアンデッキの延伸・拡幅(=広場化)を選択肢から除外しないでほしいと思います。

・ビジョンが固まってきた時点で「MOVE MOVE ARCHIVE BOOK」のように、一般向けにわかりやすいように編集していく作業が並行して必要かと思います。

○ 今回のビジョンでは、エリアの形状に関することは盛り込まない方針とのことですが、直截的な形ではなくとも、青葉通エリアの魅力向上のためには、沿道開発のあり方も見据えながら検討することが必要だと感じます。

例えば、旧さくら野ビルのあり方はもちろん、「玄関口」に必要とされる回遊性の確保という観点では、西口バスターミナルの乗換環境(ペデストリアンデッキ経由の乗降を必要とし、多くの利用者にとって必ずしも分かりやすいとは言えないものだと思います)や、バスの停留所の分散、駅前の交通渋滞等は、青葉通駅前エリアの魅力を損なう要因になるものだと思います。

沿道開発の方向性としていくらかの選択肢があるのであれば、そうした選択肢を将来的に読み込むことができるようなビジョンになると良いのではないかと思います。

○ また、本エリアの機能を語る上で交通事業者が果たす役割は大きいものと思いますが、検討会の議題が抽象的なビジョンに集中していることもあってか、交通事業者からの意見があまり見られない点は若干気になるところです。交通事業者やその他のコアな関係者については、一度事務局から個別のヒアリング等をされてもいいのではないかと思いました(既に対応されていれば申し訳ありません)。

○ その他、策定するビジョンについて、住民の納得感を醸成していく上では、いくつかの選択肢を提示し仙台市民に選んでもらうプロセスがあっても良いのではないかと思いました。

問い合わせの回答と同様になってしまいますが、フレーズ自体には違和感は全くなく、共感しています。しかし、想いと価値観という2つの似たようなフレーズが並ぶことに違和感があります。また、将来ビジョンであれば、エリアのビジョンとして、問1のフレーズを押し、そのためにどんな価値観のある場とするとか、心構えとしてグラデーション・ポジティブを掲げるといった立て付けの方が理解がしやすいと感じました。ビジョンの検討に当たっては、どんな言葉を使うよりも、どのようにそのフレーズをブランディングしていくかということが大事だと感じています。

感想として、グラデーションの表現が良い。

「想い」と「価値観」という2段階での構成が少しわかりにくく感じました。おそらく、「想い」は将来像に近い意味と感じていますので、一つは将来実現した姿(グラデーション・ポジティブの価値観に基づく、各種取組みが実現する将来の姿)を示すことにもいいと感じています。

資料に入れるかはさておき、検討材料として青葉通で起こっている協議会・ワーキンググループ・仙台市委託でリーダーシップを取っている企業や団体のいるコミュニティ・市民活動団体を切り分けた関係図を書き出してみては。そこでビジョンが強く紐づくもの、うっすら関係してくるものがグラデーションになりそうと仮定している。